

スタンフォード大学・桜美林大学協定記念レクチャーシリーズ
第六回講演会

草双紙にみられる化物 —江戸庶民にとって不気味さとは—

講師：アダム・カバット氏 (武蔵大学教授)

言語：日本語

日時：2014年6月27日(金) 16:10～17:40

会場：桜美林大学明々館A204



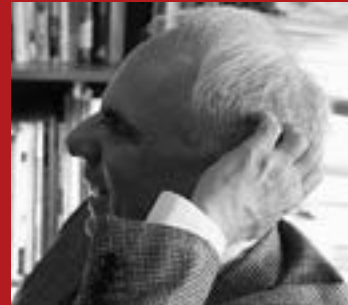
要旨：江戸庶民たちがこぞって読んだ草双紙とは、いわば「江戸のコミックス」。江戸という都市の持つ文化を反映し、風刺・パロディーに満ちた物語に登場するのは、豆腐小僧、見越入道、ろくろ首、河童、猫又、一つ目小僧など、面白可笑しい化物たちである。

粋をモットーとする江戸っ子の中で、化物たちの「野暮な姿」は爆発的な人気を呼び、数多くの草双紙が刊行された。

生まれも育ちもニューヨークながら、日本文学研究のため来日して三十年余。化物をこよなく愛するカバット先生が、お江戸の人気キャラクターの魅力と変遷を解き明かす。

【『江戸の化け物—草双紙の人気者たち』(岩波書店 2014年) 紹介文より】

講師略歴：アメリカニューヨーク州生まれ。1979～80年アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターで日本語を学ぶ。1981年ウエスレアン大学を卒業後、当時の文部省外国人留学生に選ばれ再来日。東京大学大学院総合文化研究科にて修士号取得。同研究科博士課程を経て、1997年より武蔵大学教授。専攻は近世・近代日本文学(幻想文学)。江戸の化物研究で有名。



アダム・カバット

このレクチャーシリーズは、桜美林大学とスタンフォード大学との協定に基づく学術交流の一環として実施されています。講演者は、スタンフォード大学が横浜のみなとみらいで運営するアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(Inter-University Center for Japanese Language Studies)出身の著名外国人日本研究者です。